

在仏日本人会
会報
2020年
3月・4月号

Journal Japon

令和初めてのマロニエの会新年会

マロニエの会 二口節子

2020年、vingt sur vingtの令和2年の新年会。12月5日から続く交通機関のストライキ中にもかかわらず、90人余の参加がありました。なんと素晴らしきかな老人パワー！ 新年会万年係長の私としては、悩みが一つ。会場の都合で例年より1週間早い第2日曜日になり、MHKのご自慢大会の審査委員長をお願いしていたHさんの都合がつかず、誰にお願いしようか……。日本人会のTさんが今年は参加くださるということで恐る恐るダメ元で「静かなる男」Tさんに打診しましたら、「ああいいですよ」の二つ返事を頂き悩み解消。当日審査委員長のリボンを渡す際「私は音楽は9年間やりましたから……」「義務教育だね」と座布団10枚のウィット。マロニエの苦手なIT・音響係を若者（Yさん、A君）が受け持ってくれ準備万端。会員の皆さんの手作り料理デザートがテーブルとこころ狭しと並び、この豊かさ！ 皆さんいつもありがとうございますと大感謝。余興の部も歌あり踊りあり、練習を重ねて来られた成果を楽しく発表。会員の皆さんの「一年に一度の新年会を楽しもう」という静かなる情熱のおかげで今年も楽しい新年会を催せました。今春、新型コロナウィルスという不幸がこの世にあらわれました。でも今年もvingt sur vingtの年です。「禍を転じて福となす」という気持ちで過ごしましょう。



6・7月の引越しも混み合います!ご予約はお早目に

引越しセミナー

ご帰国までのスケジュール・引越免税・
ワイン輸送など分かりやすくご案内

4.7(火)10~12時(お茶付)
在仏日本人会(パリ16区)

残された家族や日本の親族に、迷惑をかけない為に

生前整理相談会

欧州で唯一の生前整理診断士がアドバイス

- * 荷物をスッキリ
- * 不仲になってしまった人間関係やこころの生前整理
- * 不動産や資産もしっかり対応しておきたい

興味ある方は、下記までご連絡ください
開催詳細が決定したら、弊社よりご案内致します

至れり尽くせりのお引越
日本トランスユーロ
transeuro.jp

☎01-4058-1000 ✉paris@transeuro.jp

—380年の時を超えた日仏友好の奇跡のワイン—

南仏ワイン「ペイリエール」



聖ギヨーム・クルテ師

長崎の中町教会内庭園に建立された
聖ギヨームクルテ師の銅像

祝福を受ける子孫とワイン



南仏セリニャンのクルテ師像



Oratioラベル

皆さまは、史実上初めて日本を訪れたフランス人をご存知でしょうか。その名は「聖ギヨーム・クルテ」。1636年に日本に降り立った南仏セリニャン村出身のドミニコ会宣教師です。

当時の日本は江戸時代黎明期。禁教・鎖国が強化された時代で、そんな中で命を賭して日本への密入国を敢行した人物です。

クルテ師は到着した琉球で捕えられ、1年後の1637年折しも「島原の乱」の勃発した年に、長崎・西坂で殉教しました。

「聖なる遺品」を残さぬため、クルテ師の遺体は焼かれ、灰も骨も全て海に廃棄され、来日の記録も知られることなく闇に葬られました。

1970年代、没後約350年もの時を経て、1つ目の奇跡が起こります。

熱心な信者達の努力により、クルテ師の存在と功績が発見されたのです。

その結果、1987年バチカンで数十万人の信者が見守る中、時のローマ法王、ヨハネ・パウロ2世によって、クルテ師は列聖の僥倖に預かりました。またその際にクルテ師の直系子孫が南仏で営むワイナリー「ペイリエール」のワインがローマ法王に献上され、ミサおよび晩餐会で利用されるという福運に恵まれました。

その後クルテ師は出生地の南仏セリニャン村に「長崎で殉教した偉大な聖人」として銅像が建立され、日本においても「長崎の16聖人」の1人として中町教会に銅像が建立されるに至りました。

こうして日仏両国で祀られることにより、日仏友好の1つの形が完成をみました。

2つ目の奇跡は2015年、クルテ師の子孫が作る南仏ワインにまつわるものです。

奇しくもユネスコの世界文化遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が登録される2018年に先だち、バチカン秘蔵の「ORATIO」という特別なラベルが子孫のワイナリー「ペイリエール」に寄贈され、そのラベルをワインボトルに貼付することが許されたのです。ORATIOとは、もとはラテン語で「祈り」を意味し、長崎の隠れ信徒たちが口伝で歌い継いだ祈りの歌「オラシヨ」の語源なのです。

一般市販される物品にバチカンがこうした許可を与えることは極めて異例のことですが、クルテ師のみならず、その子孫が造るワインにも大いなる神の祝福を受けたことで、信者たちは「死後380年も忘れ去られていても、神様は決してお見捨てになることはない」と歡喜しました。

尚、本ワインの日本における販売収益の一部は、長崎の「キリシタン世界遺産群」の修復維持の基金および、バチカンの修復維持の基金に毎年寄贈されています。

また本ワインは2019年、約40年ぶりに来日したローマ法王フランシスコの長崎におけるミサや晩餐会でも振る舞われています。

禁教令下の日本で殉教した「初めて日本にやってきたフランス人」と、その子孫によるフランスワインが現代日本で消費され、その収益がクルテ師にまつわる日本とパチカンの世界遺産群に寄贈されるに至ったストーリーは、まさに380年もの悠久の時を超えた奇跡であり「日仏友好の知られざる偉大な奇跡」と言えるのではないのでしょうか。



Vin Passion Group 会長兼VP Wines France代表
在仏日本人会会長
片川 喜代治

令和2年3月吉日



額装という仕事
山本 康史



日本ではあまり聞くことのない額装という仕事。どうして額装の仕事をするようになったのかとよく聞かれます。額装の仕事に就く前は家具職人になるのが私の夢でした。20代半ば、まだ家具職人を目指していた頃、知人から額縁を作ってくれないかと注文を頂きました。

家具職人に額縁を作る方もたくさんいますが、額縁に特化していくのも面白そうだとその時思ったのがこの道に進むきっかけになりました。当時、額縁に関する知識が浅かった私は、額縁の情報をまず集めました。

そこで見つけたのがフランスに古くからある額装技術でした。調べると日本でフランスの額装技術を使った仕事をされている方を見つけ、私はすぐにその方に連絡をとりフランスの額装について話を聞かせもらうことにしました。

その後、額装という仕事にどんどん興味が出てきた私は、実際にフランスにある額装のアトリエを訪ねてみよう、パリとリヨンへ2週間初めての1人旅をすることにしました。

言葉ができなかったということもあり、その旅でさまざまなものを観て感じる事ができ、これまでに私がみてきたもの、経験してきたこと。そして日本人である私がやるべきこと。

アトリエを見学させてもらった後の私はそのことで頭の中がいっぱいになりました。

私にしかできないようなことをしなければという使命感のようなものを感じながら日本に帰国したのをいまでも憶えています。

その後、日本で額装の仕事数年したあと2016年に渡仏。

飛び込みでアトリエをまわり、なんとかスタージュをさせてくれるアトリエと出会うことができました。最初は言葉ができない分、行動で示そうと必死にしがみつきました。そんな中、最初に目についたのはやはり額装という仕事の需要でした。現在働かせてもらっているアトリエでは毎日たくさんの仕事があります。例えばクリスマスシーズンには額装した作品をプレゼントするお客さんはすごく多かったです。そもそも壁に飾るという文化があまりない日本ではなかなか結びつかない発想です。



フランスでは額に使うのはガラスがほとんどですが、日本では割れにくいアクリルがほとんどだったり、それは地震大国である日本だからこその理由でした。場所、環境、文化によって額装の需要のあり方がここまで違ってくるのは本当に面白いなと仕事をしながら感じています。現在アトリエでは、日本人のお客も増えだしてきており、日本人が言葉では説明しにくいニュアンスであったり要望を、私が窓口になり、お客様の求めているモノを叶えていけたらと思っています。これまでの3年間、たくさんのお会いや別れがあり、たくさんの経験をさせていただきましました。これから先、山あり谷ありとさらにいろんなことが起こると思いますが、楽しみながら頑張っていけたらと思っています。

1985年 京都府生まれ
京都建築大学卒業。2016年に渡仏
2017年から額装屋atelier mondineuに勤務



引越しは日通 **お任せください**

日本人スタッフによる安心・確実なサービスを集荷からご配達までご提供

- 単身でも
- 留学生でも
- 日本以外の国でも
- 家族でも
- フランス国内でも
- 事務所移転も

お問い合わせはこちらまで (安心・丁寧な日本語対応です)

フランス日本通運株式会社 ☎ 04 41 84 63 50
www.nipponexpress.com/moving/fr ✉ nittsu.paris@neur.com